



気に入った特産品を撮影する外国人
人＝徳島市のあるでよ徳島

徳島の特産品を学ぶ

県内の外国人 FBで魅力発信

観光分野での情報発信や就労に関心のある徳島県内の定住外国人7人が12日、徳島市の阿波おどり会館内の土産物店「あるでよ徳島」を見学し、徳島の特産品について学んだ。

参加者は中国と米国出身で、徳島の魅力を発信してもらうためフェイスブック(FB)の活用法などを教える県労働者福祉協議会主催の講座の受講生。徳島観光をPRする県制

作の動画を見た後、店内に並ぶ藍染商品や徳島ラーメンなどを見て回り、気に入った品をスマートフォンで撮影した。

阿南市羽ノ浦町中庄の主婦張怡さん(46)は「徳島に来て10年以上だが、まだ知らない所や特産品があり勉強になった」と話した。

受講生は、11月からパソコンの日本語入力の仕方やFBの使い方を学んでおり、この日感じたことを日本語と母国語で発信する。18日には鳴門市の大鳴門橋の遊歩道・渦の道を見学する。

(木村恭明)